



幅が大きかった。4～6月の粗鋼生産量の累計は前年同期比6.1%減の2,636万トン、1～6月の累計は同0.9%減の5,407万トンと微減にとどまった。

財務省が発表した6月の鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比9.2%減の347万8,000トンで4カ月連続の前年割れとなった。海外鉄鋼市場は引合いが低調な一方、中国や韓国が販売攻勢を強めているため、競争が激化しており、円高もあいまって日本の輸出環境は厳しい状況が続いている。しかし、大震災の影響を受けていた海外の日系自動車工場の生産が正常に向かったこともあり、前月比では5.7%増と3カ月ぶりに増加した。6月としては2010年の383万トンに次ぐ過去2番目の数量で、なお高水準にある。

国別輸出では、韓国・台湾などアジアNIE's向けが116万3,000トン(前年同月比23.9%減)と減少が続き、中国向けも57万8,000トン(同15.8%減)と3カ月連続の前年割れとなった。ASEAN向けも94万2,000トン(同5.0%減)と2カ月連続して減少した。アジア以外の主な向け先では、米国向けが17万7,000トン(同53.6%増)、中東向けが11万9,000トン(同34.3%増)、EU向けが2万9,000トン(同46.9%減)、ロシア向けは1万4,000トン(同63.9%減)だった。

輸入は70万2,800万トンで、前年同月比では4.0%増と2カ月連続で増加し、前月比では1.8%減で4カ月ぶりに減少した。国別輸入ではアジアNIE'sからが36万3,000トン(前年同月比14.9%増)、中国からが16万9,700トン(同2.9%増)、ロシアからが2万1,000トン(同18.4%減)、ASEANからが9,800トン(同67.5%増)となった。1～6月の累計では、輸出は前年同期比2.2%減、輸入は383万9,400万トンで同13.5%増となった。

#### ◆7～9月期粗鋼、2,692万トン——経産省見通し

経済産業省は、7～9月期の国内粗鋼生産量が4～6月期(見込み)比1.5%増の2,692万トンになるとの見通しを発表した。見通しによると、東日本大震災後にサプライチェーンの混乱などで落ち込んだ自動車など製造業向けの鋼材需要が急回復し、粗鋼生産を押し上げる。需要量は、普通鋼1,878万トン、特殊鋼474万トンで合計2,352万トンと見通しており、前期比156万トン、7.1%増加する見通しとなっている。

顕著な回復となるのは国内製造業向けで、鋼材消費見込み量では自動車が前期比26.8%、電気機械が9.2%、産業機械が3.3%とそれぞれ増加する。建設向け需要は、政府予算の削減や震災による5%執行留保で公共土木受注は減るものの、第2四半期(7～9月期)は工事発注の最盛期で土木の鋼材消費は増える。住宅は政府の支援施策が下支えるが、前期に増加した仮設住宅の復興需要の反動で若干減少する。非住宅は学校耐震化工事予算が盛り込まれ、建築向け需要は上向き見通しである。ただし、夏場の電力不足がユーザー業界の生産活動に影響する可能性があるため、下振れリスクも残るとみている。輸出向けはアジア地域の需要が好調を維持しているほか、被災企業が操業回復を受けて輸出を増やす計画を立てていることもあり、鋼材で5.4%増と見込んでいる。しかし、同省では円高や海外市場での価格下落リスクが強まっていることもあり、大幅な増加は見込めないとみている。

#### ◆エネ供給構造変化に伴う鉄鋼業界の負担増——鉄連試算

鉄鋼連盟は、国会で審議中の「再生可能エネルギー特別措置法案」により再生可能エネルギーを全量固定価格で買い取る場合について、電力多消費産業である鉄鋼業への影響度を試算した。試算の前提とした状況変化は、①全原発が稼働停止し火力発電で代替した場合、②全電力に占める再生可能エネルギーの比率を20%超にした場合、の2点である。そ

の場合、鉄連の試算では電力料金の上昇により、①で1キロワット時当たり3.7円、②で同3.4円の負担増となる。鉄鋼業全体の負担増は、①で年間1,339億円、②で同1,230億円となり、合計で2,569億円に達すると試算している。鉄鋼業のうち大量に電力を消費する電炉業では、①で経常利益の約65%、②で約60%、合計で125%を失うことになり、年間の経常利益がマイナスになる計算となる。また、製造業全体では約1兆6,600億円の負担増になると試算している。

鉄連ではこの試算を踏まえて、鉄鋼業の国際競争力を維持する上での四重苦「国際的に高い法人実効税率」、「TPPへの参加の遅れ」、「国際的公平性を欠くCO2削減目標」、「円高」に「電力料金上昇」を加えた場合、国内で生産活動を維持することが困難になり、産業空洞化が加速する可能性を示唆している。

### ◆6月世界粗鋼生産、年率15億トンペースに

世界鉄鋼協会(WSA)がまとめた6月の世界粗鋼生産(64カ国)は、前年同月比8.0%増の1億2,774万6,000トンと21カ月連続して前年実績を上回った。一方、前月比では1.6%減となり、2カ月ぶりに減少した。これは日数減も影響し、日産量では前月比1.7%増(年率換算15億5,400万トン)と2カ月ぶりに増加した。64カ国の製鋼操業率は82.8%と、前月比1.2ポイント(前年同月比2.5ポイント)上昇した。6月の中国の粗鋼生産量は、5,993万と前年同月比11.9%増となった。主要国・地域では、EU27が1,670万トン(同3.9%増)、米国721万トン(同1.7%増)、ロシア560万トン(同3.6%増)、インド596万トン(同7.3%増)、ブラジル296万トン(同3.9%増)、韓国567万トン(同19.0%増)と前年水準をそれぞれ上回ったのに対して、日本は大震災の影響もあって889万トンと前年同月比5.0%減と下回った。

1～6月の64カ国の累計生産は、前期比7.6%増の7億5,777万トンで年率15億280万トンに達する。2010年度の粗鋼生産(14億1,400万トン)水準に比べると、1億トン超の増加となる。 □

表1 世界粗鋼生産

(単位:千トン、前年同月比・前年同期比%。出所:世界鉄鋼協会)

	11年6月	前年同月比	前月比	1～6月	前年同期比
フランス	1,368	(△6.1)	(△6.1)	8,108	(△1.4)
ドイツ	3,866	(0.2)	(△6.0)	23,178	(1.9)
イタリア	2,619	(15.2)	(△1.1)	14,687	(9.4)
スペイン	1,498	(4.5)	(△3.7)	8,970	(0.1)
イギリス	829	(4.6)	(△1.9)	4,957	(△3.6)
EU27カ国計	15,700	(3.9)	(△3.9)	93,384	(4.1)
トルコ	2,824	(12.3)	(△2.3)	16,406	(21.3)
他欧州計	3,058	(9.5)	(△3.2)	18,085	(21.6)
ロシア	5,600	(3.6)	(△3.3)	34,580	(5.3)
ウクライナ	2,970	(18.1)	(△3.2)	17,896	(7.3)
CIS計	9,270	(7.6)	(△3.3)	56,643	(6.0)
カナダ	1,110	(7.5)	(△5.9)	6,615	(3.9)
メキシコ	1,686	(27.9)	(10.2)	9,195	(10.0)
アメリカ	7,213	(1.7)	(1.0)	42,654	(4.3)
北米計	10,132	(6.1)	(1.6)	59,179	(5.2)
ブラジル	2,962	(3.9)	(△9.6)	17,715	(8.2)
南米計	4,098	(10.3)	(△7.4)	24,338	(14.6)
アフリカ計	1,191	(△12.8)	(△0.2)	6,961	(△16.9)
中東計	1,665	(5.7)	(△2.7)	10,356	(8.1)
中国	59,932	(11.9)	(△0.5)	350,543	(9.6)
インド	5,960	(7.3)	(0.3)	35,636	(4.8)
日本	8,885	(△5.0)	(△1.8)	54,071	(△0.9)
韓国	5,665	(19.0)	(△3.3)	33,866	(18.5)
台湾	1,620	(0.5)	(△3.0)	10,701	(11.8)
アジア計	82,062	(9.6)	(△0.8)	484,817	(8.6)
オセアニア計	571	(△17.0)	(△10.5)	4,007	(0.8)
64カ国計	127,746	(8.0)	(△1.6)	757,771	(7.6)
*中国以外	67,814	(4.8)	(△2.5)	407,228	(6.0)